

# 栃の木からの手紙

2025年 卯月 4月号



↑ 2月25日

↓ 3月 1日

4日： 清明  
13日： 満月 :旧 3月 16日  
20日： 穀雨  
28日： 新月 :旧 4月 1日

〰 雪融けの せせらぎが大好き  
そのやさしさ 暖かさ  
何もかも 生まれてみたいよ  
目覚めて行く 春の日はみえる …… 〰  
(南 沙織 「女性」より)



↑ 3月8日

↓ 3月11日

今回掲載している写真は一般圃場B畑の小麦畑の様子。この畑は、私が写真を撮っている道路から畑の面まで4m近くの段差がある為、雪が厚く吹き積もる場所。その為、例年2月末頃には土手に沿って融雪剤を手で播いて積雪を早めに減らすようにしている。

今年もその積もりでしたが、小麦畑である事や、疲れるから機械で播こうか? と思い作業を始めたら結局全部機械で振ってしまいました。早めの融雪作業2月24日。使用資材は、防散融雪炭カル。散布した時には気付かないが、2mm程の粒状の資材の中に炭が入っていて粒が水分を含んで割れる時に黒い炭が飛び散るもの。融雪作業をして半日もするとその資材の濃さが見えてくる。今回は、4町歩の畑で反当り75kgの資材を散布。500kgのフレコンパックで5個分でした。

土手の上は、機械では撒けない為、歩いて手で散布します。

2月24・25日、芋を栽培するA・D畑に醗酵鶏糞ペレットを散布。雪の表面を黒っぽくして雪融けを促す事が目的。また、有機質資材は分解されて作物に利用される様になるのに時間が掛かります。その為、作物を植える時に施用するだけでなく時期をずらした施用も価値のある事だと思います。

4月2日には、畑の外周を残して殆ど雪が無くなりました。でも、3日には、朝から雪や曇りが降り夜19時頃には真っ白な世界に代わってしまいました。4日朝には積雪5cm程。まだまだ、季節の入れ替わりに戸惑っている小麦畑の様子。





↑ 3月29日



↑ 4月2日



3月24日 肥料散布機 (タイヤ)



2月24日 融雪剤散布機 (キャタピラー)

【 融雪作業の状況 】 (日付・作業機・資材)

	A畑	B畑	D畑	JAS畑
2月24日 融雪剤散布機	---	融雪炭カル	醗酵鶏糞	---
2月25日 融雪剤散布機	醗酵鶏糞	---	---	---
3月10日 融雪剤散布機	---	---	融雪炭カル	---
3月24日 肥料散布トラクタ	醗酵鶏糞	---	粒状米糠	粒状米糠
3月31日 融雪剤散布機	融雪炭カル 残雪部分	融雪炭カル 残雪部分	---	---

例年では、融雪作業はせいぜい2回まで大抵は1回で済んでいる。なんとなく、今年の天候を危惧する自然界の動き。5日朝、暖かそうな日の出。畑は畝筋が見える程に真っ白な雪に覆われている。

3月の中旬に、道路から畑の縁に向けて融雪炭カルを手振りしていた時、近所の人散歩をしていたので少し立ち話。「人口減少で農家の人も減って来たね。」「人口減少とは言っても、昔はもっと人口が少なくても生活していたんだから、それを考えたら何とかなるね。」「でも、昔はこの辺ももっと家があって人が住んでいたんだよ。」「この辺にも家や人が沢山…。」「・・・。」

夜になって気になった事を調べてみた。そして大きな問題がある事に気付いた。それは、産業構造が大きく変化して1次産業が衰退している事。だから「この辺にも家や人が沢山…。」